

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2020年
5月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

幕末の天才思想家、吉田松陰の教え

～育脳寺子屋の思いと重なる言葉の数々～

鎖国の真ただ中の日本。

そんなある日、日本に転機が訪れます。1853年ペリーの黒船来航です。



ペリーは圧倒的技術力の差を見せ開国させようと、日本に向け威嚇発射で大砲を三発撃ち込みます。「刀で大砲に勝てるわけが無い・・・」と沈黙しきっていた江戸幕府の中、西洋を追い抜いてやろうと意気込んでいる1人の若者がいました。

その人の名は吉田松陰、25歳。

はじめは西洋の倒し方を必死で考えていた松陰でしたが、今のままでは我々はどうても勝てないという結論に至ります。そこで松陰は発想を変えます。

「いくら敵意を燃やしたって、日本を守ることができないのであれば、むしろ外国のやり方を学んだ方がいい！」

鎖国中に海外渡航などすればもちろん死刑になります。しかし、松陰はそんなことは気にしませんでした。

翌年再び黒船がやってきた時、松陰は小舟を盗み荒波の中を漕ぎ出していき、そのまま黒船の甲板に乗り込み「学ばせてくれ！！」と頼んだのでした。しかし密航で捕まった松陰は、牢獄の中に入れてしまいます。（しかし松陰のこの覚悟と行動力が、後に明治維新という大きな波を生むこととなるのです）

松陰は仮釈放された後、松下村という小さな村で塾を始めました。

下級武士のこどもが集まる小さな塾に教科書は無く、まともな校舎もありませんでした。そこで教科書は夜を徹して弟子と一緒に書き写し、校舎も弟子たちと手作りで10畳と8畳の最低限のものを作りました。

しょうかそんじゆく

これが後に伝説となる「松下村塾」です。

松下村塾はのちに、高杉晋作や伊藤博文（初代総理）、山縣有朋（第3・9第総理）、品川弥二郎（内務大臣）、山田顕義（國學院大學と日本大学の創設者）など、結果的に総理大臣2名、国務大臣7名、大学の創設者2名というとてつもない数のエリートを世に送り込んだのです。

松陰はなぜこんな教育ができたのか？彼はこう語りました。

「いかに生きるかという志さえ立たせることができれば、
人生そのものが学問に変わり、あとは生徒が勝手に学んでくれる」

松陰はその行動力や向こう見ずな性格が災いし、30歳で短い生涯を終えることとなりますが、松下村塾の弟子たちや彼の意思を継いだ武士たちが史上最大の改革である明治維新をおこし、今に至る豊かな近代国家を造り上げたのです。

「教育は知識だけを伝えても意味は無い」

今の時代に言われているようなことを、彼はすでに幕末の頃に唱えていました。とてつもない数のエリートを育てた松陰が、知識を伝えるより大切にしたこと、また彼の残した言葉とは果たしてどのようなものだったのでしょうか。そこには育脳寺子屋の思いと重なる部分が多くありました。

やり切るまで手を離すな

たいていの人はまだ序の口で、いよいよこれからが本番というときに、自分の田んぼを放置して、人の田んぼの雑草を取りたがるのです。人の田んぼの雑草を取るというのなら、まだいい方かもしれません。一番多いのは、人が懸命に草を取っている姿を傍観して、その取り方がいとか悪いとか、批判ばかりしている人です。

「隣の芝生は青く見える」ということわざがありますが、このことわざには、他人の良いところは目に入りやすい一方で、自分に目を向けると嫌なところが目立つという人間の心理が込められています。

これは人に対してだけではなく、「物事」や「取り組み方」にも言えることです。

たいていの人はなかなか結果が出ないと、「自分には向いていない」「やり方が悪いんだ」と思い、他の人が取り組んでいることや、他の人のやり方が良く思えてきます。そして十分な努力をやり切る前に、取り組み内容や方法を変えてしまうのです。

当然のことながら、楽をして短期間で大きな結果を出せる 魔法など存在しません。

結局新しく取り組んでもまた他のことが気になって、十分な努力をやり切る前に取り組み内容ややり方を変える・・・ということを繰り返していると、満足な結果にたどり着く日は永遠にやってこないのです。

恐らく何事も、やり方にはそこまでの大きな差は無いのだと思いますし、他の人のうまくいったやり方が自分にもうまくいく方法かどうかは分かりません。結局はどれだけ腰を据えて、覚悟をもってそのことに 取り組み続けることができるかどうか が大事なのだと思います。(たとえ正しいやり方で取り組んでいても、結果が出るようになるまでは時間がかかるものです)

人と比べるとどうしても正しい判断ができなくなってしまうので、あくまで比較対象は「過去の自分」にするのが良いと思います。このやり方で失敗したから、次はこうしよう・・・と過去の自分に対して改善を繰り返していけば、そのうち「自分にとって一番効率の良い方法」を見つけ出すことができます。

この世の恩に報いる

昨日も食事をして、着られるものを着て、屋根の下ですやすやかに眠ることができたなら、今まで自分の身に起こった出来事をひとつ思い出し、心から感謝することです。

今は世界中が前例のない危機に陥っています。子供たちも二か月以上学校に通えないという状態で、このような時にはじめて「当たり前は、ありがたいことなんだ」と気づいている方も多いのではないのでしょうか。

「当たり前はありがたい」ということは、このように悪い状況に立たされた時や大切なものを失った時にしか感じにくいと思います。特に今は物やサービスが溢れかえっている時代なので、人の欲はとどまることを知りません。つまり基本的に「満足」はできないのです。

日ごろからこの気持ちを持って生活することができれば、すなわち「**足るを知る**※」ことができれば、少しでも豊かな精神状態で人生を送れるようになるのです。

※「足るを知る」

- ・中国の思想家、老子の言葉。無いものや不足しているものに注目するのではなく、足りているもの、すでにあるものに注目するという意味で、「既に十分満足であることを知りましょう」と伝える言葉です。

流れを変えるのは自分の行動

幸運とか不運というものは、天から無差別に降ってくるものではなく、すべて自分の方から求めているものなのです。そのことを思い出すことができれば、他人のせいにして、組織の在り方に腹を立てたりすることなく「自分の行動を変えよう」という発想に行き着くことができるはずです。

誰しも今の自分を取り巻く環境や状況に対して、大なり小なり不満があると思います。しかしそれに対し不平不満を口にしていただけでは何ら解決には向かいません。

日頃子供たちを指導していて、伸びる子とそうでない子の差は「**素直さ**」が大きく関

係しているように感じます。

例えばこちらが指導や注意をした際に「はいっ！」と素直に返事をして、言われた通りに行動できる子は、それが身に付きどんどん成長できます。自分でも成長を感じることができるので、どんどん人のアドバイスに耳を傾けるようになり、さらに成長を続けていきます。

逆にこちらが指導した際に素直な「はいっ！」が言えなかったり、「でもな〜」「だつてな〜」と言い訳をしている子は、その時点で成長できるチャンスを逃しています。

この素直さの差が積み重なることで、個人の成長の差がどんどん大きくなります。

先日、面談である生徒が「学校の友達とうまくいっていない」と相談をしてきました。聞くと、友達や周りの環境に対してかなりの不満があるようでした。そこで、

『確かにそれだと学校に行くの楽しくないなあ。でも、文句を言うだけで解決することは無いし、まず自分にできることは何かないか考えてみない？結局周りの環境や人を変えることなんてできないから、まずは自分が変わる意識をしてみたら？意外と自分が原因を作っていることがあるかもしれないよ。』

とアドバイスしたところ、その生徒は素直に「はいっ！」と返事。その結果、次の面談時には「最近学校が楽しいです！」と言ってくれました。

親御さんに話を聞くと「今までは気に入らないことがあるとすぐに態度に出して、あまり口をきかなかったようなのですが、あれ以降は態度に気を付けて、解決に向けちゃんと友達と話をするようになったそうです。そうすると、今までうまくいっていなかった友達との仲も良好になり、学校生活がスムーズにいくようになったそうです。」

結局のところ、人や環境を変えることはできないので、自分を変えるしかないのです。

子どもたちにいちばん大切なのは「はいっ！」の返事です。ご家庭でこの返事がちゃんとできていないと、外でもできていない可能性が高いのです。家族間の会話はいい加減になってしまいがちですが、再度ご家庭でも返事の徹底をお願いしたいと思います。

すぐに育つものはない

「人を育てなさい」ということは、「一晩で別人のように育てなさい」ということではありません。思いやりと一貫性のある正しい態度を、沐浴のようにじっくりと浴びせ、染みついていたものが自然と流れ落ちていくのを待ちましょう。そして本人も気づかないうちに、悪いものから遠ざかり、良いものへと移っていく、その様子を近くで見守り続ける。できることは、ただそれだけです。

テストの点数や通知表など、数字で表すことのできる能力を「**認知能力**」と言います。この部分は一夜漬けや対策講座で、その子の実際の能力以上の結果を出させることはさほど難しくありません。（これまでの時代では、この認知能力が重要視されてきました）

しかしこれからのAIが普及する誰も経験したことのない時代には、数字で表すことのできない能力「**非認知能力**」が重要であると言われていています。

この非認知能力は簡単に言えば人間として生きていくための力であり、具体的には

『**目標に向かって最後まで頑張る力**』・・忍耐力・自己抑制・目標への情熱など

『**他の人とうまく関わる力**』・・社交性・敬意・思いやりなど

『**感情をコントロールする力**』・・自尊心・楽観性・自信など

が挙げられます。ただ、これらの能力は一朝一夕で身につくものではありません。それこそ数字で表すことができないので、親にとっても子供の非認知能力がどれだけ成長しているのかが分かりにくいのです。

重要なのは「**すぐに結果を求めすぎないこと**」です。

親や指導者がすぐの結果を求めると、子供は地道に目標に向かって最後まで頑張ることができなくなります。今よりもその先を信じ、気長に待つしかないのです。

そして、子供は口で言い聞かせても聞きません。結局は**環境**でしか育たないのです。ご家庭やわれわれ指導者など、子供が接する大人が上記の非認知能力を伸ばしてあげられるような心がけ、声掛けをいかにしてあげられるかが重要だと考えています。

昔の偉人たちは結局、目の付け所が一緒なんです

今回は吉田松陰についてまとめてみましたが、長年 MAC に通われている方は

「あれ、こんな内容以前のMAC NEWSにも書いてなかった？」

と感じられた方もいると思います。今日まとめた内容は以前にも書いた内容と重なる部分が数多くありました。結局のところ偉人と呼ばれるほどの人は活躍する時代やフィールドは違えど、目の付け所は一緒なんだと感じます。

最近入塾された方、以前のMAC NEWSを見逃したという方は、ぜひこの自肅で時間がある時に一度見返してみてください。

育脳寺子屋のHP、「MAC NEWSバックナンバー」よりご覧頂けます。

<https://ikunouterakoya.com/>



(もしくは育脳寺子屋で検索してください)

上記 QR コードからもご覧いただけます。

- 2020年 1月号 ~自分の「命」の使い道を見つけよう~
- 2019年 1月号 ~人生で成功できるかはこの力次第!~
- 2019年 7月号 ~「教育業」はサービス業!??~
- 2019年 9月号 ~母との約束、夢を追いかけて~
- 2017年 6月号 ~Do you know 『GRIT』??~

このあたりが、今回と通ずる内容がより詳細にまとめてある号になります。

自肅疲れで親子関係がギスギスしている頃だと思います(笑) ご家庭で子供たちをどのように育てたらよいのか、少しばかりのヒントになるかもしれません。そして少しでも親子のストレスの軽減につながれば嬉しく思います。何とか乗り切りましょう!

【参考資料: 覚悟の磨き方 超訳 吉田松陰 (サンクチュアリ出版)】

知識だけを増やしても意味が無い!

みなさんが勉強をするのには、どのような目的があるのでしょうか。
テストで良い点数を取るため？それとも知識を増やすためでしょうか？

物事には「本質」と「枝葉」がある

幕末の頃、総理大臣や国務大臣、大学の創設者など多くのエリートを生み出した「松下村塾」という小さな塾がありました。その塾で先生をしていたのが吉田松陰でした。松陰は次のように言っていたそうです。

**「いくら知識だけを増やしても意味が無い。
物事には本質と枝葉がある。この本質の部分が重要なのだ。」**

枝葉とは知識のこと、本質とは「どう生きたいのか」という志の部分なのです。この本質の部分が無ければ、どれだけ素晴らしい本を読んでも、どれだけ素晴らしい話を聞いても、知識が増えたというだけで、人生の根本的な役には立っていないということなのです。

「学ぶ」ということは、人に評価してもらうためにするものではありません。「こういう人になるために学ぼう」という志を持つようになれば、学んだ知識は全て役立つものになるのです。さて、あなたは将来どのような人になりたいですか？一度じっくり考えてみてくださいね。



偉人の名言

「誰かに評価されるための学問ではなく、
『こういう人になるために学ぼう』というのが目標」

吉田松陰 ～幕末の天才思想家であり教育者～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。